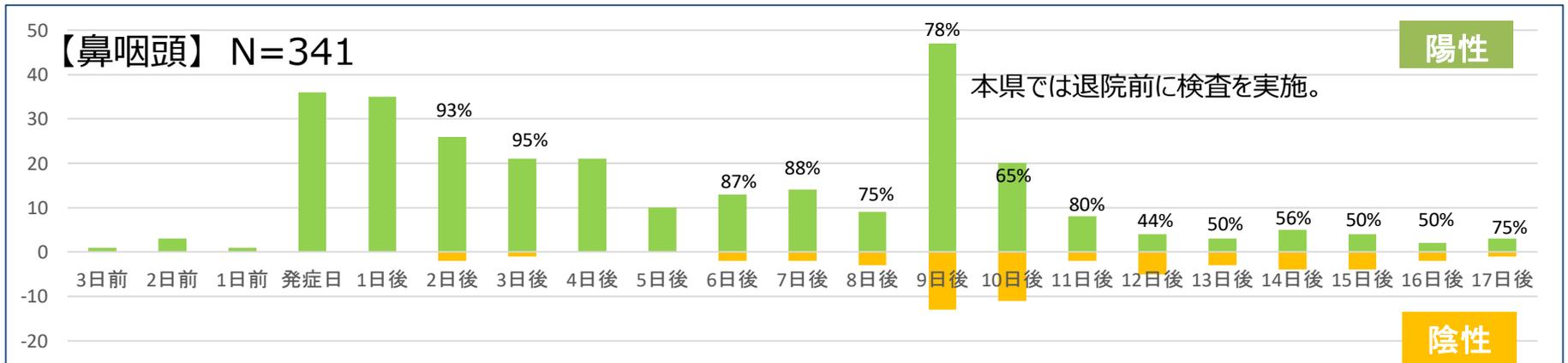
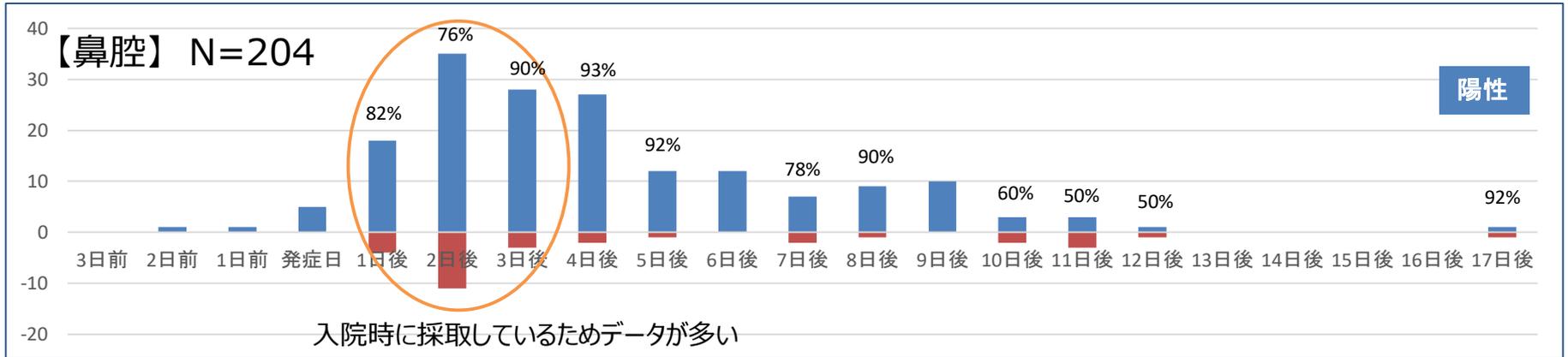


1. コロナ発症日からの日数と鼻腔・鼻咽頭のPCR検査結果

コロナ患者の鼻腔・鼻咽頭の採取日における陽性率について検討

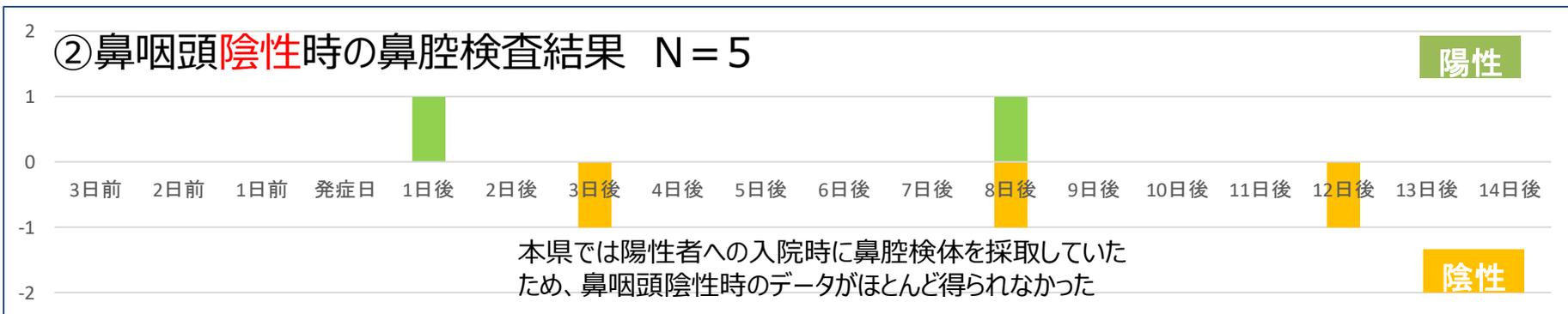
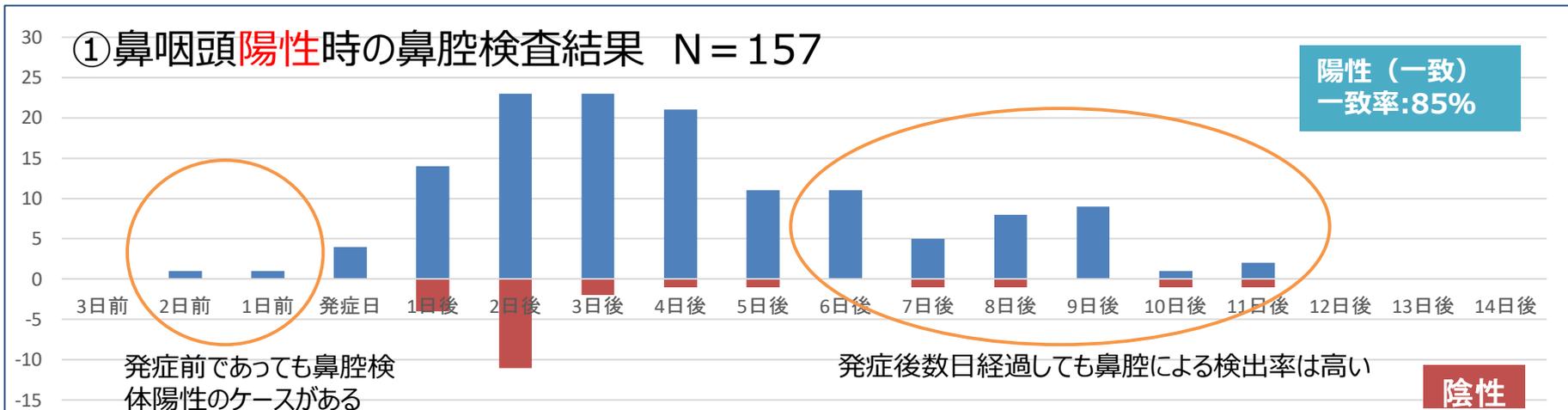


・鼻腔について、全体で見ると陽性率は84% (172検体)であった。発症日から9日後までの陽性率は90%であった。鼻咽頭よりも検出率は劣るものの陽性者の鼻腔検体においては高率で陽性であった。

・鼻咽頭について、発症後から退院までは経過日数に応じて陽性率が低くなる傾向

2. 鼻咽頭検体のPCR検査結果における鼻腔検体の一致状況

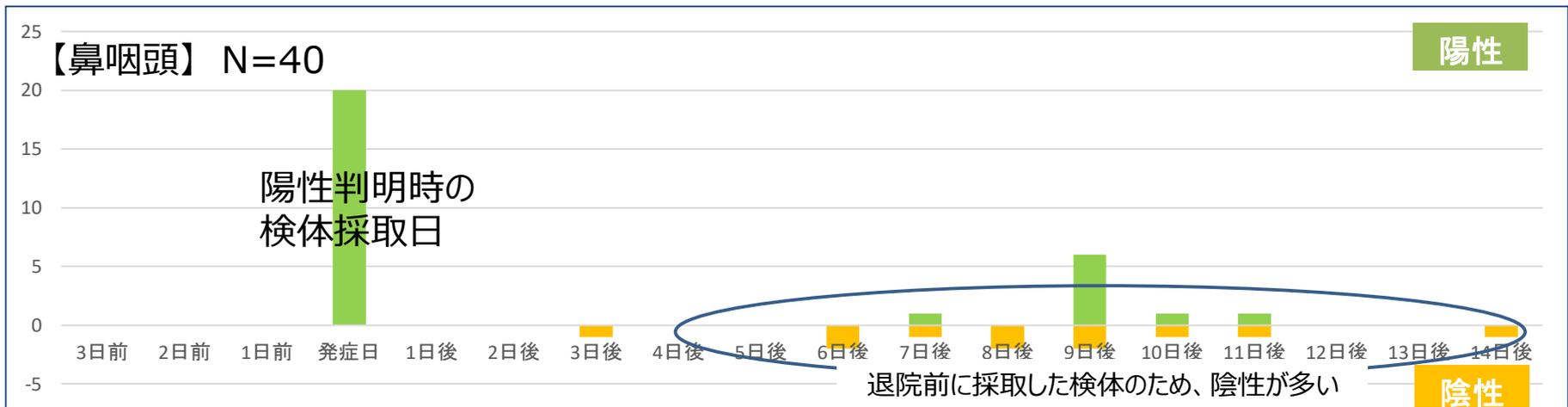
コロナ患者の鼻咽頭と鼻腔のPCR検査の一致率について検討



- ・鼻咽頭と鼻腔を2日以内に採取したものについて検討(同日採取したものがほぼないため)。なお、無症状病原体保有者は陽性と判明した検体採取日を発症日としている。
- ・鼻咽頭検体で陽性時は、鼻腔のPCR検査は高率(85%)で一致している。
- ・②の鼻咽頭陰性時にはデータが少ないため検証できないが、鼻咽頭の検体が陰性であっても鼻腔が陽性となるケースはある。

3. 無症状病原体保有者の鼻腔・鼻咽頭のPCR検査結果

鼻咽頭で陽性と判明した無症状者の鼻腔のPCR検査一致について検討



- ・無症状者の鼻腔検体について、陽性率は54% (13検体)であった。
- ・鼻腔で陰性であっても鼻咽頭陽性である場合があり、無症状者への検査を実施する場合は感染予防対策を実施する必要がある。